

東京 2020 オリンピック 聖火リレーの警備を共同受注

県全域で6月26、27日に行われた東京2020オリンピック聖火リレーの警備業務を山梨県警備業協同組合（久保島敏理事長 組合員16社）が、共同受注で実施した。県のオリ・パラ実行委員会からの依頼によるもので、1日目は南部町を出発し峡南・中北地域から甲府市を周り、2日目は笛吹市を出発し、峡東地域、富士山五合目、東部・富士五湖地域の全ルート約32kmを警備する大規模なイベント警備となった。

新型コロナウイルス感染症によるオリンピック延期で聖火リレーも中断となっていたが、今年3月から計画が再始動。昨年の計画とは違い、コロナ禍での聖火リレーとして沿道で観覧者の密集を避けるための警備も必要になり、当初より警備員を増員しなければならなかった。



要員計画の段階では全体で延べ430人の警備員が必要と試算されたが、組合員は各社の通常業務を遂行しながら土日に実施される聖火リレーの警備を行

山梨県警備業協同組合



うため、従業員である警備員の時間外労働の調整など考慮しなければならず、試算よりも多くの警備員数の確保が課題となった。そこで組合では、沿線ルートを3会場ずつ12に分け少人数で構成された4つの班を構成、警備の完了した班が4つ目の会場の警備に向かうというローテーション方式をとり12会場の警備を行う計画を立てた。事務局のコントロールと組合員の協力があり、最終的には組合から延べ180名、員外から延べ100名、実数280名で聖火リレー全ルートの警備を遂行することができた。

これまで組合では、信玄公祭り、各地の花火大会やマラソン大会など県内の大きなイベントの共同受注を行ってきた。新型コロナウイルスが早期に収束し県内各地で様々なイベントが再開されることを期待し、今後も組合員の協力のもと積極的な事業展開に取り組んでいくこととしている。

